

[040]ICER Newsletter

<https://hdl.handle.net/2324/2332554>

出版情報 : ICER Newsletter. 40, pp.1-, 2019-08. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

最近の新しい取り組みをご紹介します！！

「九州コンソーシアムによる副専攻型高度データサイエンス教育プログラム」講義ビデオの制作

2018年10月、文部科学省 平成30年度大学教育再生戦略推進費「Society 5.0に対応した 高度技術人材育成事業 未来価値創造人材育成プログラム(a)超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業」に 九州大学の事業「九州コンソーシアムによる 副専攻型高度データサイエンス教育プログラム」が採択されました（※詳細）。当センターでは、本事業の支援を行っております。具体的な取り組みとして、本年度夏季学期開講の「データサイエンス技法演習」（講師：和田陽一郎客員准教授）の演習ビデオの撮影編集を担当しました。作成しましたビデオは、受講学生の予習・復習に活用されました。

本センターでは、各部局の教育プログラムにつきまして、講義ビデオ制作等の支援をさせていただいております。同様の事案がございましたら、本センターを是非ご活用ください。

※詳細：九州大学大学院システム情報科学研究院 ADS育成室
<https://ads.i.kyushu-u.ac.jp/overview>

【岡田 義広 センター長】



歯学科目対話型演習教材の開発

当センターの協力教員をお願いしています歯学研究院・築山能大教授のご協力を得て、歯学科目対話型演習教材の開発を開始しました。2019年6月14日に馬出キャンパス・歯学研究院を訪問し、築山教授より歯学科目の演習講義について詳細を伺いました。Phantomと呼ばれるハプティックデバイス（フォースフィードバックデバイス）を用いた対話型歯科治療トレーニングVR(Virtual Reality)システムを開発する予定です。システム情報科学府学生の協力を得てシステム開発を実施し、歯学部学生の協力を得てユーザ評価を実施しシステムを改善し、演習講義で活用できるシステムの開発を目指します。また、歯学研究院・岡村和俊助教のご依頼を受け、CT画像やMRI画像の読影演習のための e-Learning教材の開発も開始いたしました。

これら教材開発の進捗につきましては、定期的にご報告させていただく予定です。完成まで乞うご期待下さい。



【岡田 義広 センター長】

2D/3D 教材開発システムのご紹介～ Vol.6～

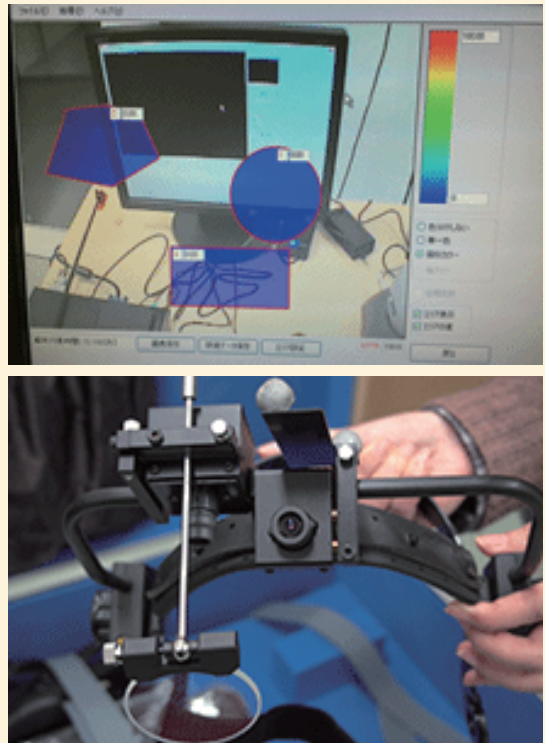
「視線追尾装置」

「視線追尾装置」は、被験者が今どこを見ているのかを計測する装置です。被験者の瞳を小型カメラで撮影し、瞳の動きを追跡することで、被験者の視線を追跡することができます。教材開発センターの視線追尾装置は、頭に装着するタイプで頭の動きの影響を受け難く、LEDライトを瞳に当てその輝点の動きを追跡することにより、精度よく視線追尾が行えます。視線追尾装置は、様々な活動場面において、人がどのように対象物を捉えているのかを調査するのに向いています。例えば、大学の講義や実習・実験において、学生がどのような視線の動きをしているのかを解析することで、興味はどこにあるのか、講義に集中しているのか等を把握するのに役立ちます。視線の動きに基づくユーザインタフェースの研究開発も行われています。

電子教材開発に限らず研究目的でのご利用も可能ですので、是非ご活用下さい。

【再掲】

教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。
先生方の講義資料の作成や講義収録にお使い下さい。



～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置
- ③ 3D スキャナー ④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ
- ⑥ 視線追尾装置 ⑦ 360度VRカメラ ⑧ 講義収録配信システム

「電子教材開発に係るニーズ調査」回答期間終了と結果報告

前号でご報告しましたように、本センターの支援を必要とされている案件を調査するため、「電子教材開発に係るニーズ調査」を実施させて頂きました。回答期間は 2019年6月10日(月)～30日(日)で、教職員への回答協力を部局へのメール依頼により行いました。多くのご回答、ご協力を頂きありがとうございました。有効回答数は 37 名でした。

対面授業でICTを活用されているか否かの問いに対する回答結果は、右円グラフの通りです。高い割合でICTを活用されていることが分かりました。他の回答結果につきましては、当センターホームページ(下記URL)にて公開しております。また、実名で当センターからの連絡を希望された教員は8名でした。6月から7月にかけて8名の先生方と対面でのお打合せを行い、可能な範囲で支援させていただくことになりました。ご要望の多くは講義等ビデオの制作で、対話型電子教材の開発支援のご要望もいくつかありました。

URL: https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20190807

本調査は定期的実施していく予定です。次回は 11月 に実施予定です。次回もご協力をよろしくお願いいたします。

【芳賀 瑛 助教】

